

## 平成12年度の大気汚染状況について

横浜市では、大気環境の状況を把握するため、環境基準が定められている二酸化硫黄、二酸化窒素等の汚染物質について、一般環境大気測定局（以下「一般局」という）20局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という）8局の計28局で、年間にわたって自動測定機による連続測定を行っています。また、平成9年度からベンゼン等の有害大気汚染物質について、毎月あるいは隔月ごとに定点で測定する定時期定点測定を行っています。この他に、簡易測定法による二酸化窒素の測定を112地点で実施しています。

このたび、平成12年度の測定結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。（測定局一覧は資料編2ページ）

○二酸化硫黄：環境基準は昭和55年度から継続して12年度も全局で適合しているが、三宅島の噴煙に含まれる二酸化硫黄の影響により、短時間ではあるが高濃度の発生がみられた。

これに関連して、水素イオン濃度（pH）が3.5を下回る酸性雨も観測された。

○二酸化窒素：環境基準適合局数は「一般局」で10年度が10局、11年度が15局、12年度が18局と増加している。また、「自排局」についても0局、2局、2局となり、ここ10年間をみると改善傾向を示している。

○浮遊粒子状物質：環境基準適合局数は「一般局」で10年度の4局から、11年度の17局へ増加したものの12年度には5局に減少している。また、「自排局」についても0局、4局、3局と変動したが、ここ10年間をみると改善傾向を示している。

### 測定結果の概要

<自動測定機による連続測定（環境基準の評価は長期的評価を適用）>

#### 1 二酸化硫黄（資料編：3～5ページ）、酸性雨

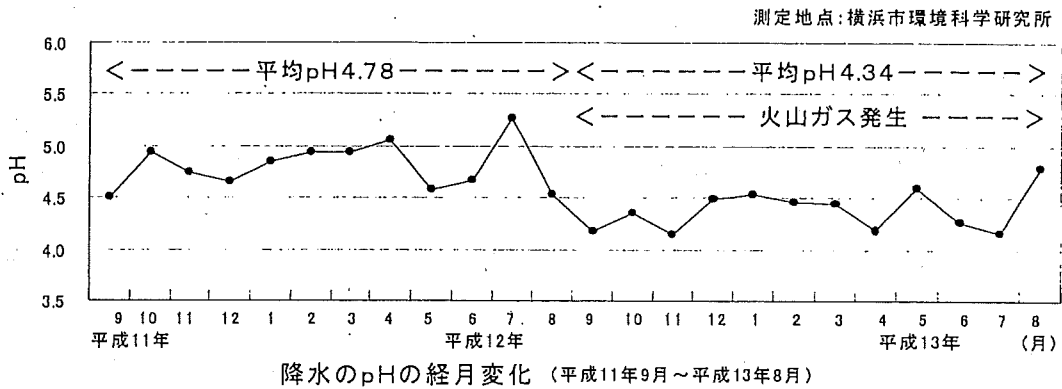
・昭和40年代から進めてきた工場等に対する規制・指導により排出総

量が大幅に削減され、環境状況も大きく改善されています。

- ・年平均値は、昭和42年度をピークに昭和50年度にかけて急激に低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。

(資料編：4, 5ページ)

- ・しかし、平成12年の夏期から三宅島の噴煙に含まれる二酸化硫黄の影響による濃度の上昇がみられ、異臭に関する苦情、問い合わせが寄せられました。
- ・また、これに関連して雨水のpHが低下し、降り始めの1mmのpHが3.5を下回る酸性雨が観測されています。平成13年6月5日にはpH2.98の強い酸性雨がありました。



## 2 二酸化窒素 (資料編：6～10ページ)

- ・昭和50年代から工場等への脱硝装置の設置やガス等の良質燃料への転換により、排出量の削減を図ってきました。また、新車に対する排出ガス規制が段階的に強化されてきています。
- ・環境基準には「一般局」で18局、「自排局」で2局が適合しています。

(次表及び資料編：「一般局」6ページ、「自排局」9ページ表3-3)

二酸化窒素の環境基準適合局数の推移 (適合局数/全局数)										
年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一般局	3/16	9/17	6/17	9/17	13/19	13/19	13/20	10/20	15/20	18/20
自排局	1/8	1/8	0/8	0/8	1/8	1/8	1/8	0/8	2/8	2/8

- ・年平均値は「一般局」、「自排局」とともに横ばいで推移していたものが平成11年度にはやや改善を示し、12年度もほぼ同じ値となりました。(資料編：「一般局」7, 8ページ、「自排局」9, 10ページ)

以上のように、近年、二酸化窒素は環境基準適合局数が増加し、平均値も改善がみられています。

### 3 浮遊粒子状物質 (資料編11～15ページ)

- 昭和40年代から工場等における集じん機の設置やガス燃料への転換等により、ばいじん排出量の削減を進めてきていますが、自動車からの排出ガスや土壌の舞い上がり、さらにはガス状の大気汚染物質が大気中で粒子状物質に変化するなど、発生源が多様なこともあり対策が困難な面があります。
- 環境基準には「一般局」で5局、「自排局」で3局が適合しています。

(資料編：「一般局」11ページ、「自排局」14ページ表4-3)

浮遊粒子状物質の環境基準適合局数の推移 (適合局数/全局数)

年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一般局	0/16	1/17	2/17	0/17	1/19	2/19	5/20	4/20	17/20	5/20
自排局	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	4/8	3/8

- 年平均値は「一般局」、「自排局」とともに、12年度は11年度に比べやや上昇しましたが、長期的には改善傾向にあります。

(資料編：「一般局」12、13ページ、「自排局」14ページ表4-4、15ページ)

### 4 一酸化炭素 (資料編：16～17ページ)

- 一酸化炭素の発生はほとんどが自動車によるもので、昭和40年代後半からの自動車排出ガス規制の効果により、環境濃度は大幅に改善されています。
- 環境基準には昭和56年度から「自排局」全局で適合しています。
- 年平均値は昭和52年度以降低下し、全市的に低濃度で推移しています。

### 5 光化学オキシダント (資料編：18～19ページ)

- 光化学スモッグの指標である光化学オキシダント濃度については、原因物質である炭化水素系物質の蒸発防止や窒素酸化物排出量の削減を図ってきました。
- 光化学スモッグ注意報の発令回数及び届出被害者数については、昭和50年前後をピークに減少しています。(資料編：19ページ表6-3)
- 平成12年度は注意報発令回数は6回で、届出被害者数は4名でした。  
(資料編：19ページ表6-2)
- なお、本年度は8月27日現在で、注意報の発令は8回、届出被害者数は0名となっています。
- 環境基準には11年度と同様、全局が不適合でした。(資料編：18ページ)

<定時期定点測定>

6 有害大気汚染物質

揮発性有機化合物等とダイオキシン類については連続測定できる測定機がないことから定期的に定点での測定を継続しています。

(1) 揮発性有機化合物等 (資料編：21 ページ)

環境基準が設定されているベンゼン，トリクロロエチレン及びテトラクロロエチンについては毎月1回の測定を，また，その他19種の有害大気汚染物質については2月ごとに1回の測定を「一般局」3局，「自排局」2局で行っています。

- ・環境基準が設定されている3物質のうち，ベンゼンが「自排局」2局で不適合でした。

(2) ダイオキシン類 (資料編：22 ページ 平成13年5月16日発表済)

大気環境中のダイオキシン類については平成9年10月から季節ごとに定点での測定を継続しています。平成12年度は各区1地点，合計18地点で24時間サンプリングし分析しました。

この他に，産業廃棄物処理施設の集合している瀬谷区北町周辺の環境調査も2地点で実施しました。

- ・各地点の年平均値は0.092～0.45 pg-TEQ/m<sup>3</sup>の範囲にあり，環境基準（年平均値0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup>）に適合していました。

<簡易測定法>

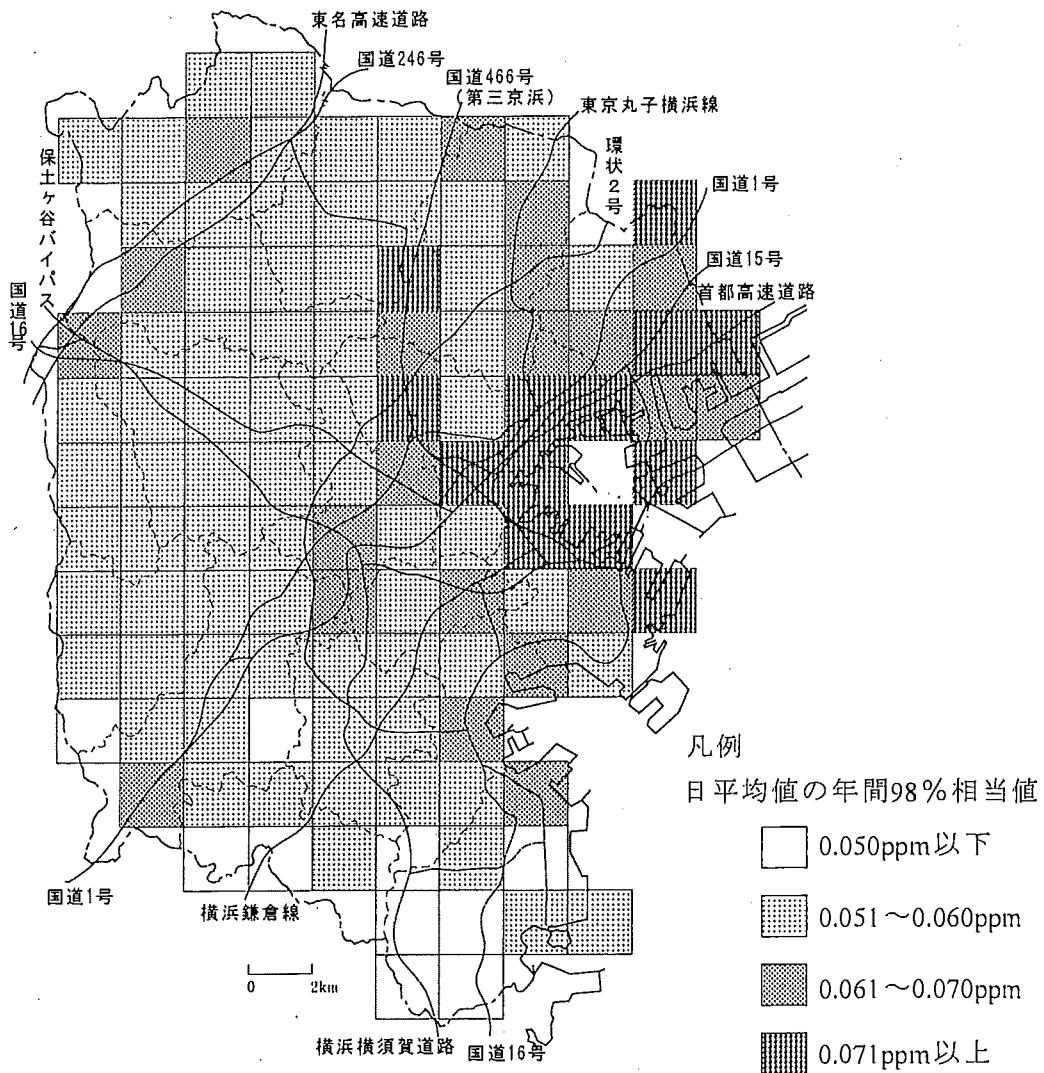
7 二酸化窒素 (次表及び次図)

市域の二酸化窒素の汚染分布を詳細に把握するため，簡易測定法である長期暴露型NO<sub>x</sub> サンプラーを用いた測定を，市域を2 km 四方のメッシュに切った112ヶ所で実施しています。

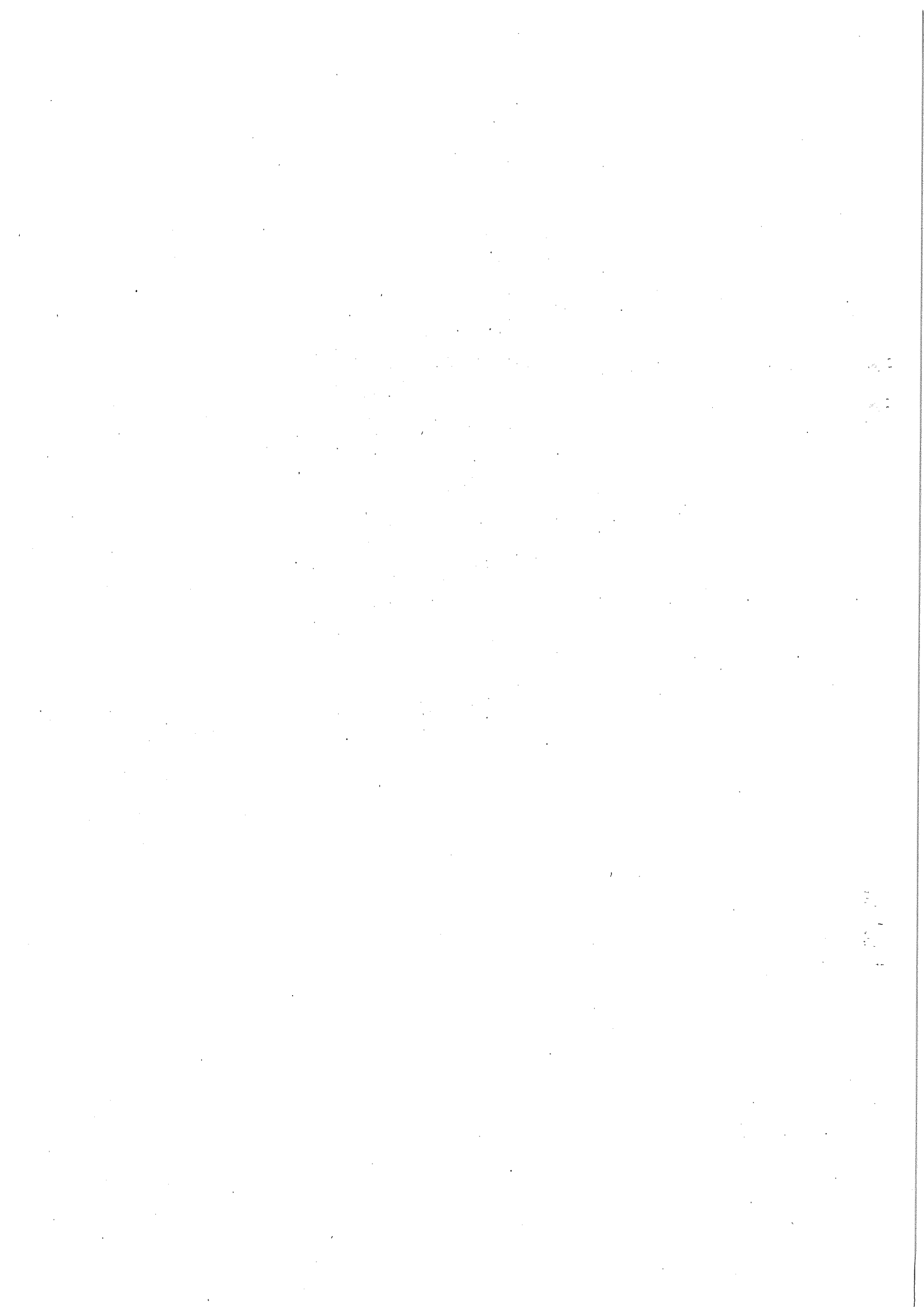
- ・都心部，臨海部で濃度が高いほか，主要幹線道路近傍でも比較的高い傾向がみられます。
- ・環境基準に適合していると見込まれるのは78メッシュ（70%）でした。
- ・環境基準適合メッシュ数は12年度は11年度に比べ減少しましたが経年的には改善傾向を示しています。

二酸化窒素濃度環境基準適合状況 (メッシュ数)

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12
適合	59	63	59	54	63	71	72	80	78
不適合	53	49	52	58	49	41	40	32	34



簡易測定法による二酸化窒素濃度分布図 (平成12年度)



資料

平成12年度大気環境の状況について

	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント
一般局（20局）	○	○	○		○（19局）
自排局（8局）		○	○	○（6局）	

○印で測定

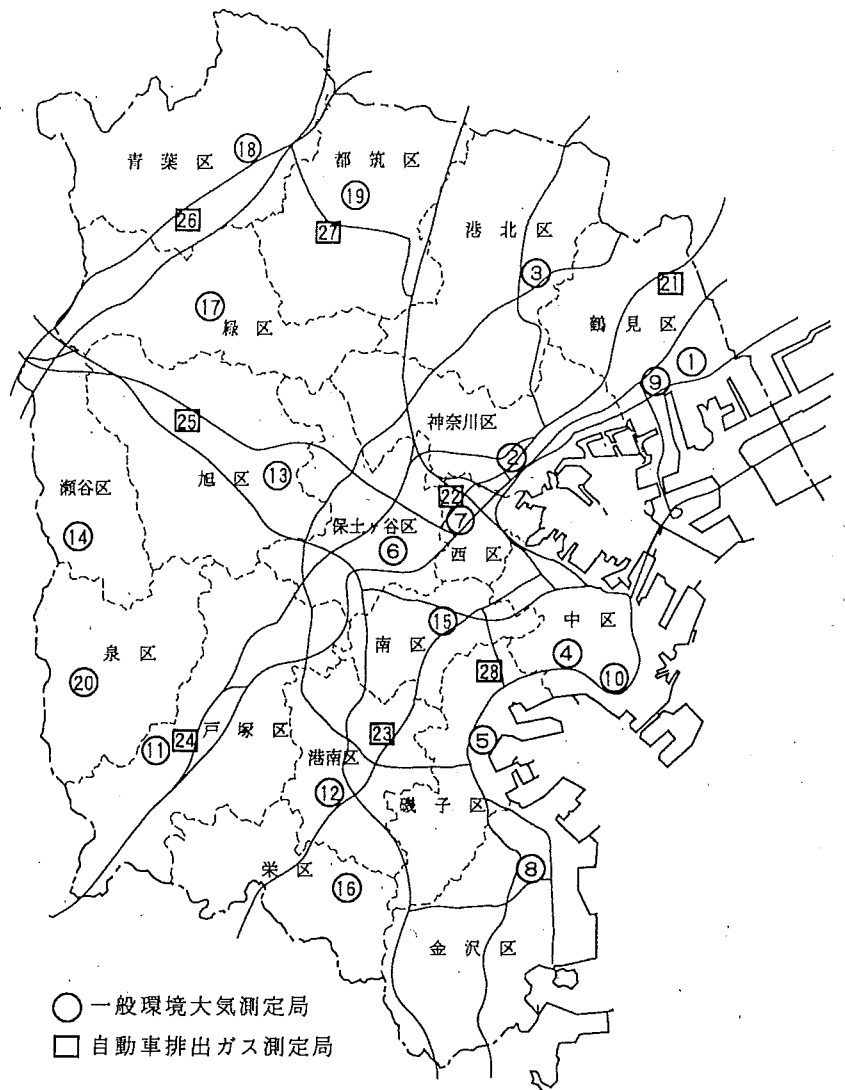


表1 測定局一覧

系統	地点番号	測定局
一般環境大気測定局	1	鶴見区潮田交流プラザ
	2	神奈川区総合庁舎
	3	港北区総合庁舎
	4	中区加曽台
	5	磯子区総合庁舎
	6	保土ヶ谷区桜丘高校
	7	西区平沼小学校
	8	金沢区長浜
	9	鶴見区生麦小学校
	10	中区本牧
	11	戸塚区汲沢小学校
	12	港南区野庭中学校
	13	旭区鶴ヶ峯小学校
	14	瀬谷区南瀬谷小学校
	15	南区横浜商業高校
	16	栄区犬山小学校
	17	緑区三保小学校
	18	青葉区総合庁舎
	19	都筑区総合庁舎
	20	泉区総合庁舎
自動車排出ガス測定局	21	鶴見区下末吉小学校
	22	西区浅間下交差点
	23	港南中学校
	24	戸塚区矢沢交差点
	25	旭区都岡小学校
	26	青葉台
	27	環境都筑工場前
	28	磯子区滝頭

図1 大気常時監視測定局配置図



表2-1 二酸化硫黄年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	1時間値が 0.1ppmを超 えた時間数	日平均値が 0.04ppmを超 えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適○、否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.008	4	0	0.017	○
神奈川区総合庁舎	0.009	5	0	0.016	○
港北区総合庁舎	0.007	6	0	0.015	○
中区加曾台	0.010	9	1	0.021	○
磯子区総合庁舎	0.008	5	1	0.016	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.006	3	0	0.012	○
西区平沼小学校	0.007	6	1	0.016	○
金沢区長浜	0.006	3	0	0.015	○
鶴見区生麦小学校	0.009	7	0	0.018	○
中区本牧	0.009	7	0	0.022	○
戸塚区汲沢小学校	0.006	1	0	0.013	○
港南区野庭中学校	0.007	5	0	0.015	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.007	2	0	0.016	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.006	1	0	0.014	○
南区横浜商業高校	0.007	4	0	0.014	○
栄区犬山小学校	0.006	5	0	0.014	○
緑区三保小学校	0.005	4	0	0.011	○
青葉区総合庁舎	0.007	4	1	0.014	○
都筑区総合庁舎	0.007	6	1	0.017	○
泉区総合庁舎	0.007	1	0	0.015	○
平均	0.007	4	0	0.011	-

表2-2 二酸化硫黄濃度の経年変化（年平均値）  
（一般環境大気測定局）

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鶴見区潮田交流プラザ	0.011	0.009	0.008	0.009	0.009	0.011	0.008	0.009	0.008	0.008
神奈川区総合庁舎	0.010	0.009	0.009	0.009	0.010	0.010	0.008	0.008	0.007	0.009
港北区総合庁舎	0.010	0.007	0.007	0.008	0.008	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007
中区加曽台	0.013	0.011	0.010	0.010	0.010	0.010	0.009	0.009	0.009	0.010
磯子区総合庁舎	0.011	0.010	0.008	0.009	0.009	0.009	0.007	0.008	0.007	0.008
保土ヶ谷区桜丘高校	0.010	0.007	0.006	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.005	0.006
西区平沼小学校	0.010	0.009	0.007	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.007
金沢区長浜	0.009	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006
鶴見区生麦小学校	0.010	0.008	0.008	0.009	0.009	0.008	0.008	0.008	0.007	0.009
中区本牧	0.011	0.010	0.009	0.009	0.009	0.009	0.008	0.009	0.007	0.009
戸塚区汲沢小学校	0.007	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.005	0.005	0.006
都筑区都田中学校	0.008	0.006	0.006	0.006	—	—	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.005	0.006	0.005	0.007
旭区鶴ヶ峯小学校	0.007	0.007	0.006	0.006	0.007	0.006	0.005	0.005	0.005	0.007
瀬谷区南瀬谷小学校	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.006	0.006
南区横浜商業高校	0.010	0.008	0.007	0.007	0.007	0.008	0.006	0.006	0.006	0.007
栄区犬山小学校	—	0.006	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.006
緑区三保小学校	—	—	—	—	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	0.006	0.007	0.005	0.006	0.007	0.007
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	0.007	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.006	0.006	0.005	0.007
平均	0.010	0.008	0.007	0.007	0.007	0.008	0.006	0.007	0.006	0.007

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。

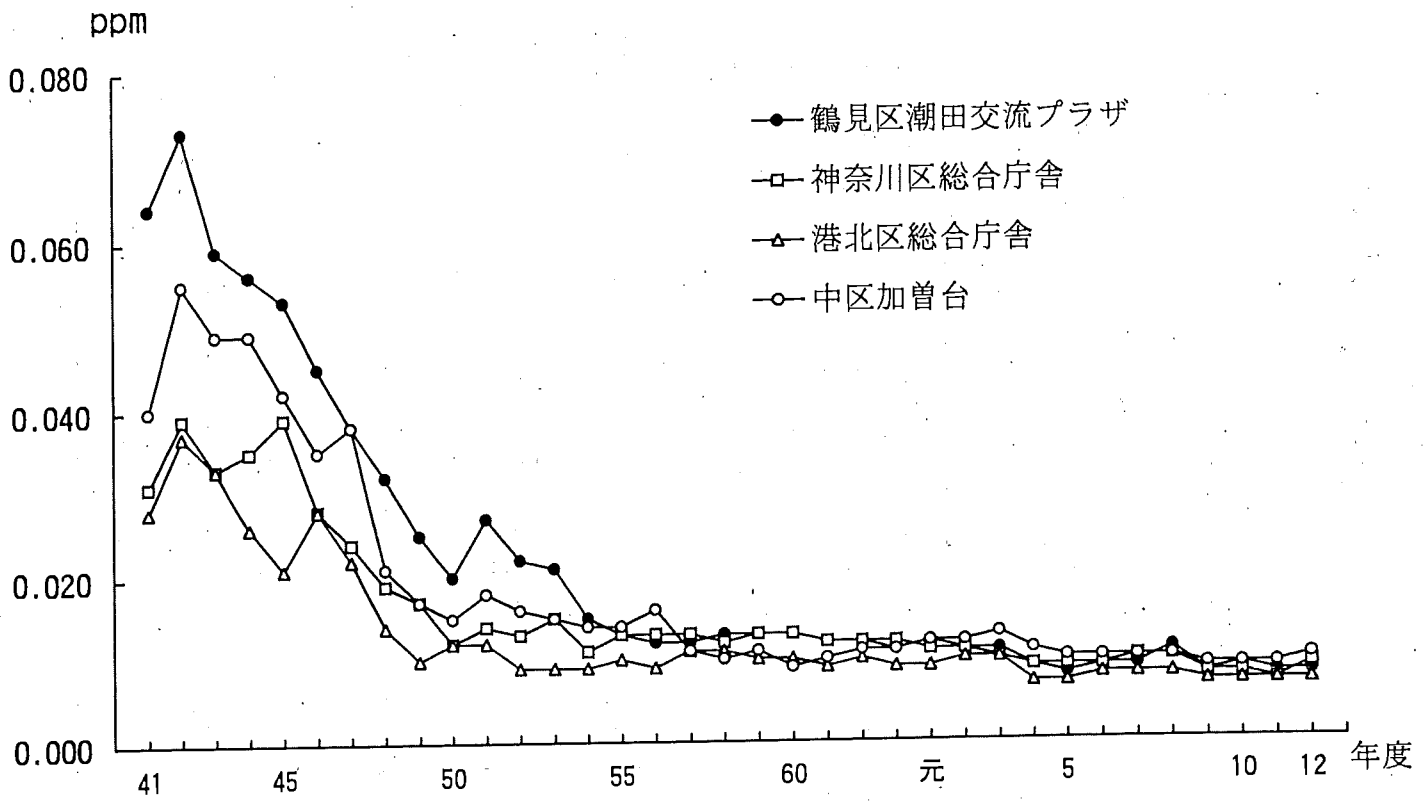


図 2 継続4局における二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)

表3-1 二酸化窒素年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	日平均値が0.06ppmを超えた日数と割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	98%値評価による環境基準の適否 適○ 否×
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.036	10	2.7	0.063	3	×
神奈川区総合庁舎	0.037	10	2.7	0.063	3	×
港北区総合庁舎	0.033	4	1.1	0.058	0	○
中区加曾台	0.033	6	1.6	0.059	0	○
磯子区総合庁舎	0.034	4	1.1	0.057	0	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.031	2	0.6	0.054	0	○
西区平沼小学校	0.033	4	1.1	0.058	0	○
金沢区長浜	0.022	0	0.0	0.047	0	○
鶴見区生麦小学校	0.028	0	0.0	0.051	0	○
中区本牧	0.026	1	0.3	0.055	0	○
戸塚区汲沢小学校	0.021	0	0.0	0.041	0	○
港南区野庭中学校	0.022	0	0.0	0.043	0	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.023	0	0.0	0.043	0	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.023	0	0.0	0.042	0	○
南区横浜商業高校	0.028	0	0.0	0.050	0	○
栄区犬山小学校	0.025	0	0.0	0.052	0	○
緑区三保小学校	0.026	0	0.0	0.048	0	○
青葉区総合庁舎	0.031	0	0.0	0.050	0	○
都筑区総合庁舎	0.031	2	0.6	0.053	0	○
泉区総合庁舎	0.028	1	0.3	0.050	0	○
平均	0.029	2	0.6	0.052	-	-

表3-2 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)  
(一般環境大気測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鶴見区潮田交流プラザ	0.042	0.040	0.038	0.037	0.038	0.037	0.038	0.037	0.033	0.036
神奈川区総合庁舎	0.042	0.040	0.039	0.040	0.037	0.037	0.038	0.039	0.036	0.037
港北区総合庁舎	0.035	0.036	0.035	0.037	0.037	0.037	0.036	0.036	0.033	0.033
中区加曽台	0.033	0.032	0.032	0.031	0.032	0.033	0.033	0.035	0.032	0.033
磯子区総合庁舎	0.040	0.038	0.038	0.037	0.035	0.033	0.037	0.039	0.035	0.034
保土ヶ谷区桜丘高校	0.032	0.033	0.031	0.032	0.033	0.031	0.032	0.033	0.030	0.031
西区平沼小学校	0.035	0.036	0.035	0.036	0.036	0.036	0.035	0.036	0.033	0.033
金沢区長浜	0.028	0.027	0.027	0.026	0.024	0.025	0.024	0.026	0.022	0.022
鶴見区生麦小学校	0.038	0.038	0.038	0.037	0.036	0.036	0.035	0.036	0.027	0.028
中区本牧	0.032	0.031	0.030	0.031	0.031	0.030	0.029	0.032	0.023	0.026
戸塚区汲沢小学校	0.030	0.028	0.029	0.027	0.026	0.029	0.028	0.029	0.022	0.021
都筑区都田中学校	0.030	0.029	0.028	0.028	—	—	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.029	0.029	0.027	0.028	0.027	0.028	0.028	0.029	0.022	0.022
旭区鶴ヶ峯小学校	0.031	0.030	0.030	0.029	0.031	0.031	0.030	0.030	0.023	0.023
瀬谷区南瀬谷小学校	0.031	0.033	0.033	0.032	0.032	0.033	0.032	0.031	0.024	0.023
南区横浜商業高校	0.036	0.035	0.035	0.034	0.032	0.033	0.030	0.033	0.028	0.028
栄区犬山小学校	—	0.025	0.025	0.025	0.024	0.027	0.026	0.028	0.025	0.025
緑区三保小学校	—	—	—	—	0.028	0.028	0.027	0.028	0.024	0.026
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	0.035	0.035	0.033	0.033	0.030	0.031
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	0.031	0.033	0.032	0.032	0.029	0.031
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.028	0.030	0.027	0.028
平均	0.034	0.033	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.033	0.028	0.029

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。

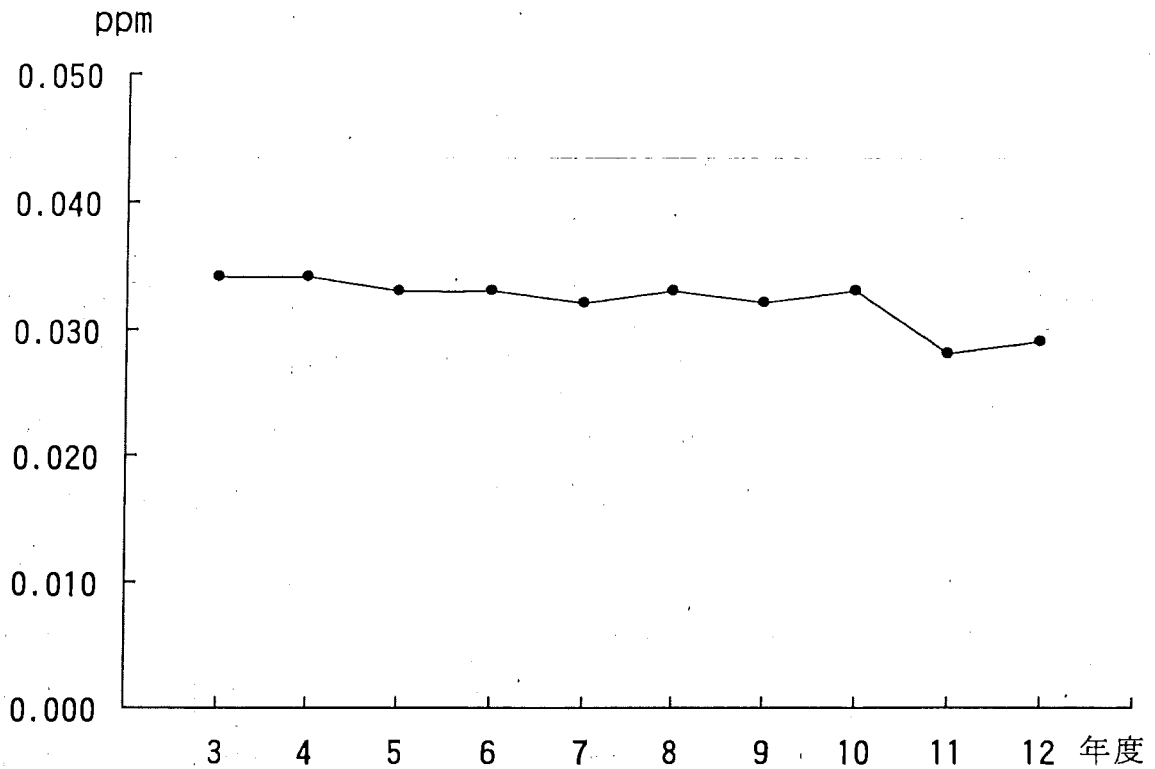


図3-1 二酸化窒素濃度の経年変化 (一般局10年継続15局年平均値)

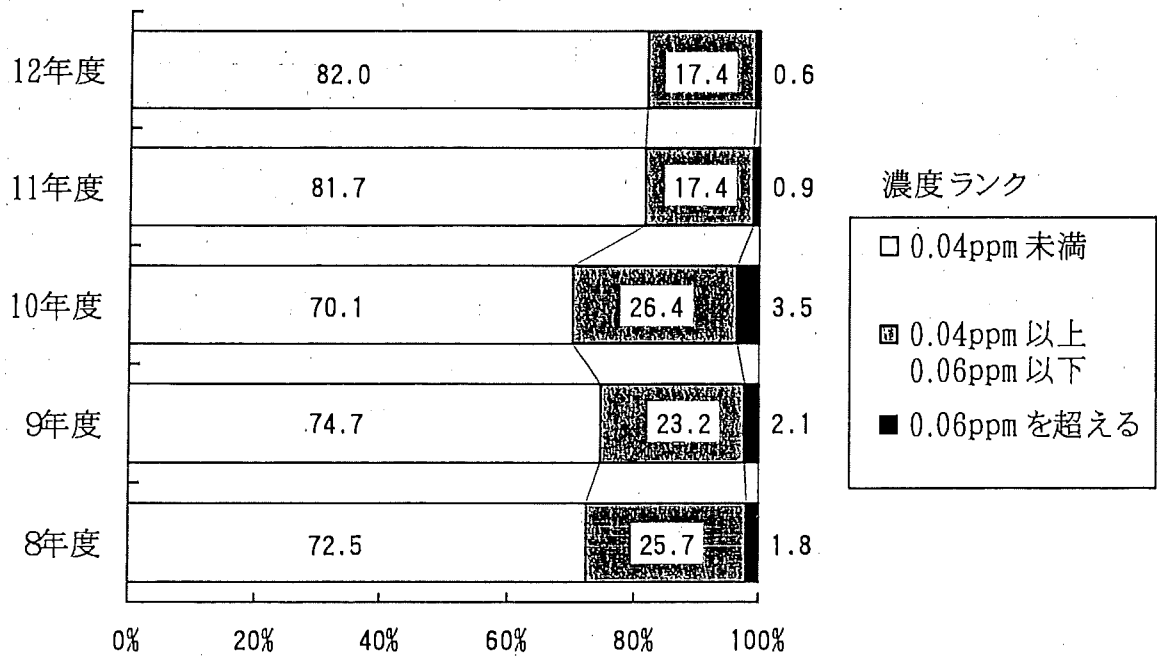


図3-2 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (一般局5年継続19局平均)

表3-3 二酸化窒素年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	日平均値が0.06ppmを超えた日数と割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	98%値評価による環境基準の適否 適○ 否×
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	
鶴見区下末吉小学校	0.041	18	5.0	0.069	11	×
西区浅間下交差点	0.047	57	15.6	0.069	50	×
港南中学校	0.037	9	2.5	0.061	2	×
戸塚区矢沢交差点	0.030	0	0.0	0.048	0	○
旭区都岡小学校	0.039	16	4.5	0.064	9	×
青葉台	0.040	15	4.1	0.063	8	×
環境都筑工場前	0.033	3	0.8	0.054	0	○
磯子区滝頭	0.044	26	7.2	0.068	19	×
平均	0.039	18	5.0	0.062	-	-

表3-4 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局	年度	平成3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	鶴見区下末吉小学校		0.046	0.044	0.045	0.041	0.043	0.043	0.043	0.044	0.040
西区浅間下交差点		0.052	0.051	0.051	0.051	0.054	0.053	0.052	0.054	0.050	0.047
港南中学校		0.040	0.038	0.037	0.038	0.039	0.039	0.039	0.040	0.038	0.037
戸塚区矢沢交差点		0.041	0.040	0.041	0.040	0.039	0.041	0.039	0.040	0.031	0.030
旭区都岡小学校		0.043	0.041	0.040	0.042	0.041	0.042	0.042	0.043	0.040	0.039
青葉台		0.039	0.040	0.039	0.039	0.040	0.041	0.041	0.042	0.040	0.040
環境都筑工場前		0.035	0.034	0.034	0.036	0.034	0.034	0.032	0.034	0.032	0.033
磯子区滝頭		-	0.053	0.048	0.052	0.052	0.049	0.047	0.047	0.043	0.044
平均		0.044	0.043	0.042	0.042	0.043	0.043	0.042	0.043	0.039	0.039

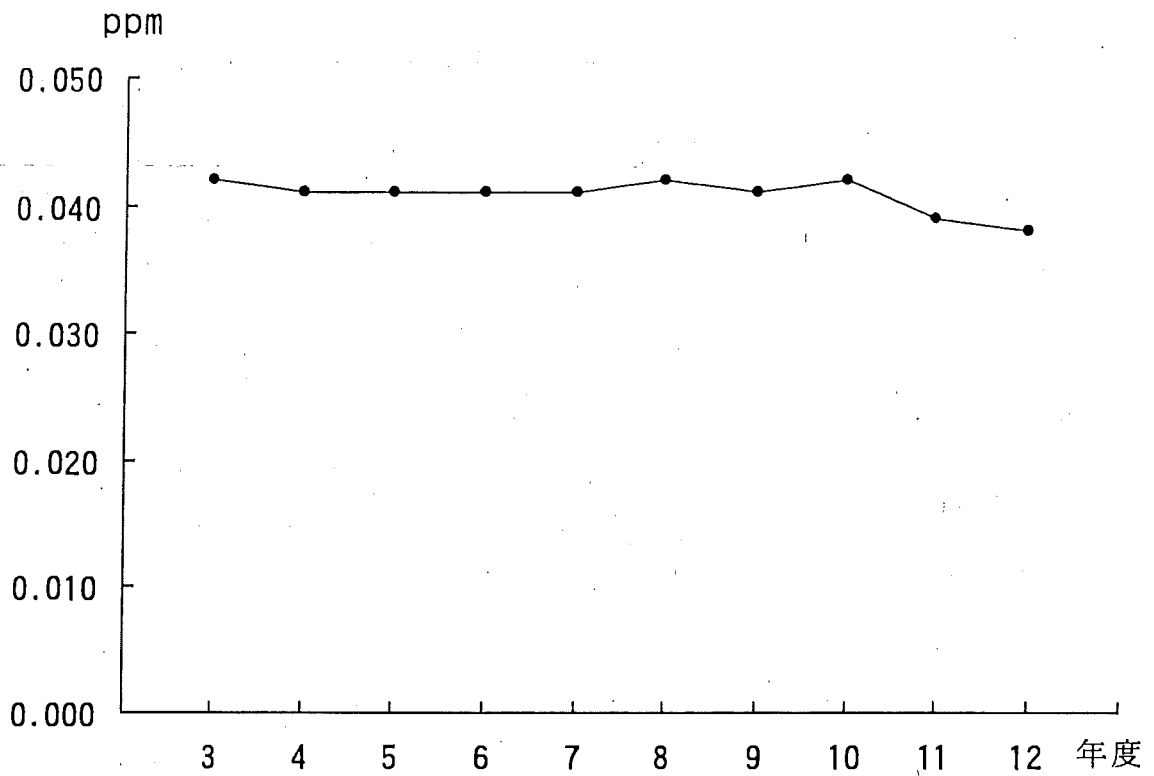


図3-3 二酸化窒素濃度の経年変化 (自排局10年継続7局年平均値)

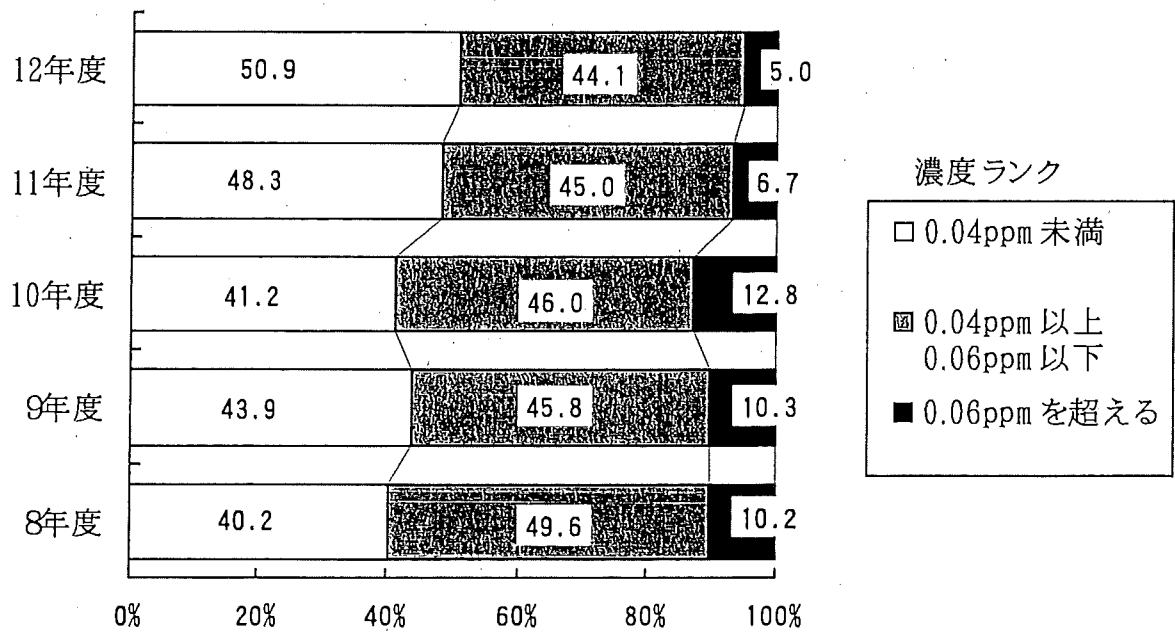


図3-4 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (自排局全8局平均)



表4-1 浮遊粒子状物質年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	1時間値が0.2 mg/m <sup>3</sup> を超えた 時間数	日平均値が0.1 mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価による 環境基準の適否  (数値は超過日数)
	(mg/m <sup>3</sup> )	(時間)	(日)	(%)	(mg/m <sup>3</sup> )	(適○, 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.035	5	5	1.4	0.085	× 2 注*
神奈川区総合庁舎	0.035	4	4	1.1	0.087	× 2 注*
港北区総合庁舎	0.036	10	6	1.8	0.095	× 2 注*
中区加曽台	0.033	2	4	1.1	0.091	× 2 注*
磯子区総合庁舎	0.031	1	2	0.5	0.080	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.035	15	6	1.6	0.091	× 2 注*
西区平沼小学校	0.038	24	8	2.2	0.101	× 3
金沢区長浜	0.027	0	1	0.3	0.067	○
鶴見区生麦小学校	0.038	16	5	1.4	0.093	× 2 注*
中区本牧	0.031	1	2	0.6	0.079	○
戸塚区汲沢小学校	0.038	15	6	1.6	0.097	× 2 注*
港南区野庭中学校	0.027	0	0	0.0	0.060	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.029	0	0	0.0	0.061	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.037	1	3	0.8	0.084	× 2 注*
南区横浜商業高校	0.038	18	7	2.0	0.098	× 2 注*
栄区犬山小学校	0.029	2	3	0.8	0.077	× 2 注*
緑区三保小学校	0.034	2	4	1.1	0.086	× 2 注*
青葉区総合庁舎	0.036	1	4	1.1	0.084	× 2 注*
都筑区総合庁舎	0.033	2	4	1.1	0.079	× 2 注*
泉区総合庁舎	0.034	2	3	0.8	0.090	× 2 注*
平均	0.034	6	4	1.1	0.084	—

注 \*印の測定局は、日平均値の2%除外値は0.100 mg/m<sup>3</sup>以下であるが、環境基準を超える日が2日以上連続したので、環境基準に不適合と評価される。

表 4 - 2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (年平均値)  
(一般環境大気測定局)

(mg / m<sup>3</sup>)

測定局 \ 年度	平成 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鶴見区潮田交流プラザ	0.052	0.046	0.045	0.044	0.042	0.045	0.041	0.039	0.032	0.035
神奈川区総合庁舎	0.058	0.052	0.048	0.048	0.042	0.040	0.039	0.038	0.031	0.035
港北区総合庁舎	0.056	0.055	0.051	0.049	0.042	0.041	0.041	0.040	0.033	0.036
中区加曽台	0.044	0.043	0.038	0.037	0.035	0.034	0.033	0.035	0.029	0.033
磯子区総合庁舎	0.049	0.047	0.042	0.042	0.038	0.037	0.036	0.039	0.031	0.031
保土ヶ谷区桜丘高校	0.047	0.041	0.041	0.041	0.041	0.039	0.038	0.037	0.031	0.035
西区平沼小学校	0.053	0.046	0.046	0.047	0.049	0.045	0.043	0.043	0.038	0.038
金沢区長浜	0.036	0.031	0.033	0.033	0.030	0.029	0.029	0.028	0.024	0.027
鶴見区生麦小学校	0.055	0.052	0.049	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042	0.036	0.038
中区本牧	0.043	0.038	0.037	0.037	0.036	0.033	0.033	0.033	0.026	0.031
戸塚区汲沢小学校	0.057	0.056	0.052	0.049	0.046	0.043	0.042	0.040	0.036	0.038
都筑区都田中学校	0.045	0.040	0.039	0.042	—	—	—	—	—	—
港南区野庭中学校	0.040	0.038	0.034	0.036	0.034	0.032	0.031	0.030	0.023	0.027
旭区鶴ヶ峯小学校	0.043	0.037	0.046	0.052	0.057	0.048	0.041	0.036	0.026	0.029
瀬谷区南瀬谷小学校	0.055	0.053	0.052	0.049	0.045	0.043	0.042	0.040	0.037	0.037
南区横浜商業高校	0.056	0.055	0.048	0.047	0.042	0.040	0.040	0.041	0.034	0.038
栄区犬山小学校	—	0.038	0.035	0.036	0.033	0.031	0.030	0.031	0.025	0.029
緑区三保小学校	—	—	—	—	0.041	0.041	0.038	0.038	0.032	0.034
青葉区総合庁舎	—	—	—	—	0.045	0.043	0.043	0.041	0.035	0.036
都筑区総合庁舎	—	—	—	—	0.042	0.040	0.039	0.037	0.031	0.033
泉区総合庁舎	—	—	—	—	—	—	0.039	0.039	0.033	0.034
平均	0.049	0.045	0.043	0.043	0.041	0.039	0.038	0.037	0.031	0.034

注：鶴見区潮田交流プラザの測定結果は、平成3年度までは旧鶴見保健所、4年度・5年度は鶴見区下野谷小学校の測定値を使用。

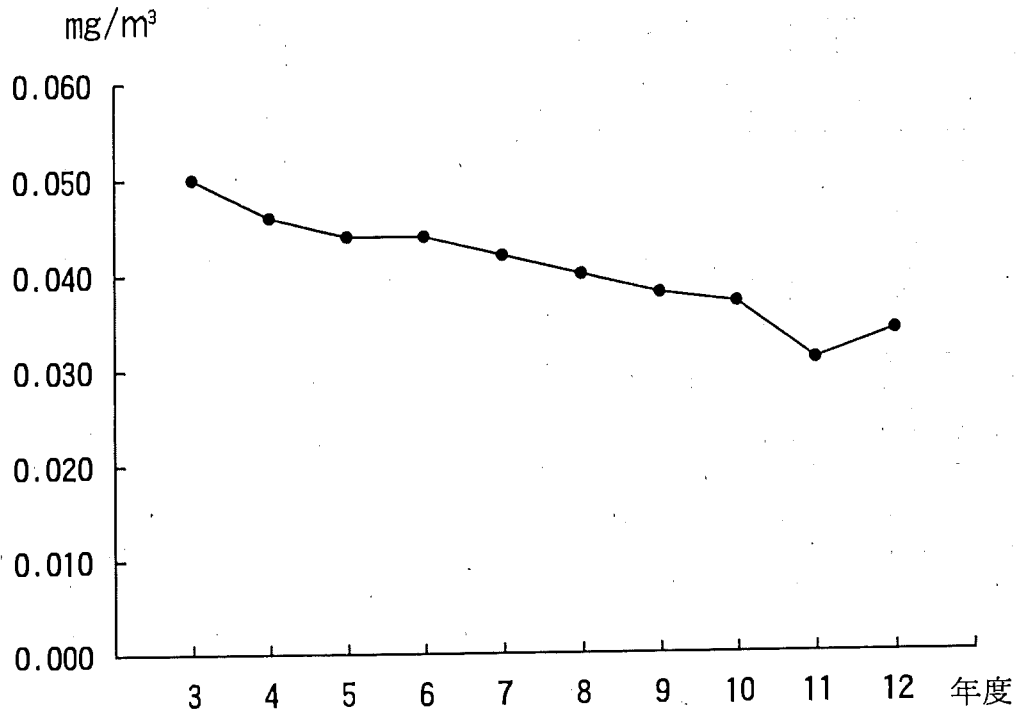


図4-1 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (一般局10年継続15局年平均値)

表4-3 浮遊粒子状物質年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	1時間値が0.2 mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数	日平均値が0.1mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合		日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否 (数値は超過日数)
	(mg/m <sup>3</sup> )		(日)	(%)		
鶴見区下末吉小学校	0.041	0	1	0.3	0.078	○
西区浅間下交差点	0.059	18	19	5.2	0.111	× 15
港南中学校	0.037	17	6	1.6	0.096	× 2 注*
戸塚区矢沢交差点	0.038	6	7	1.9	0.098	× 2 注*
旭区都岡小学校	0.047	25	13	3.6	0.110	× 9
青葉台	0.047	3	4	1.2	0.091	× 2 注*
環境都筑工場前	0.039	0	1	0.3	0.082	○
磯子区滝頭	0.048	11	3	0.8	0.092	○
平均	0.045	10	7	1.9	0.095	-

注 \*印の測定局は、日平均値の2%除外値は0.100 mg/m<sup>3</sup>以下であるが、環境基準を超える日が2日以上連続したため、環境基準に不適合と評価される。

表4-4 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(mg/m<sup>3</sup>)

測定局	年度	平成3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	鶴見区下末吉小学校		0.056	0.051	0.052	0.055	0.056	0.057	0.055	0.051	0.039
西区浅間下交差点		0.085	0.081	0.078	0.081	0.074	0.074	0.074	0.074	0.058	0.059
港南中学校		0.055	0.055	0.051	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042	0.035	0.037
戸塚区矢沢交差点		0.061	0.060	0.056	0.052	0.048	0.045	0.045	0.044	0.038	0.038
旭区都岡小学校		0.083	0.083	0.070	0.066	0.061	0.058	0.056	0.053	0.045	0.047
青葉台		0.073	0.063	0.063	0.069	0.066	0.062	0.055	0.055	0.047	0.047
環境都筑工場前		0.063	0.055	0.054	0.056	0.059	0.053	0.050	0.046	0.039	0.039
磯子区滝頭		-	0.076	0.085	0.096	0.086	0.078	0.074	0.068	0.048	0.048
平均		0.068	0.066	0.064	0.066	0.062	0.059	0.056	0.054	0.044	0.045

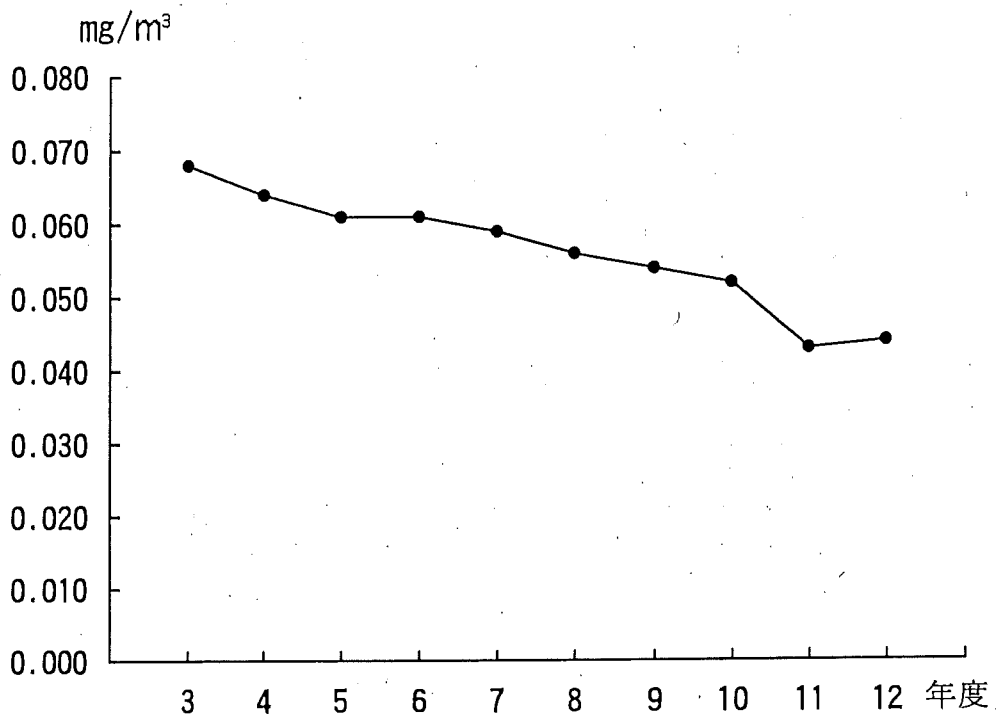


図4-2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（自排局10年継続7局年平均値）

表5-1 一酸化炭素年間測定結果  
(自動車排出ガス測定局)

平成12年度

測定局	年平均値	8時間値が20ppm を超えた回数	日平均値が10ppm を超えた日数	日平均値 の2%除 外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適○, 否×)
鶴見区下末吉小学校	1.0	0	0	2.1	○
西区浅間下交差点	1.6	0	0	2.9	○
港南中学校	0.8	0	0	1.8	○
戸塚区矢沢交差点	0.8	0	0	1.6	○
旭区都岡小学校	1.1	0	0	2.5	○
青葉台	0.9	0	0	1.9	○
平均	1.0	0	0	2.1	-

表5-2 一酸化炭素濃度の経年変化 (年平均値)  
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局	年度	平成 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	鶴見区下末吉小学校		1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.3	1.2	1.2	1.0
西区浅間下交差点		2.5	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	1.7	1.6
港南中学校		1.5	1.4	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8
戸塚区矢沢交差点		1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8
旭区都岡小学校		2.1	1.9	1.7	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1
青葉台		1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	0.9	0.9
平均		1.7	1.6	1.5	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.1	1.0

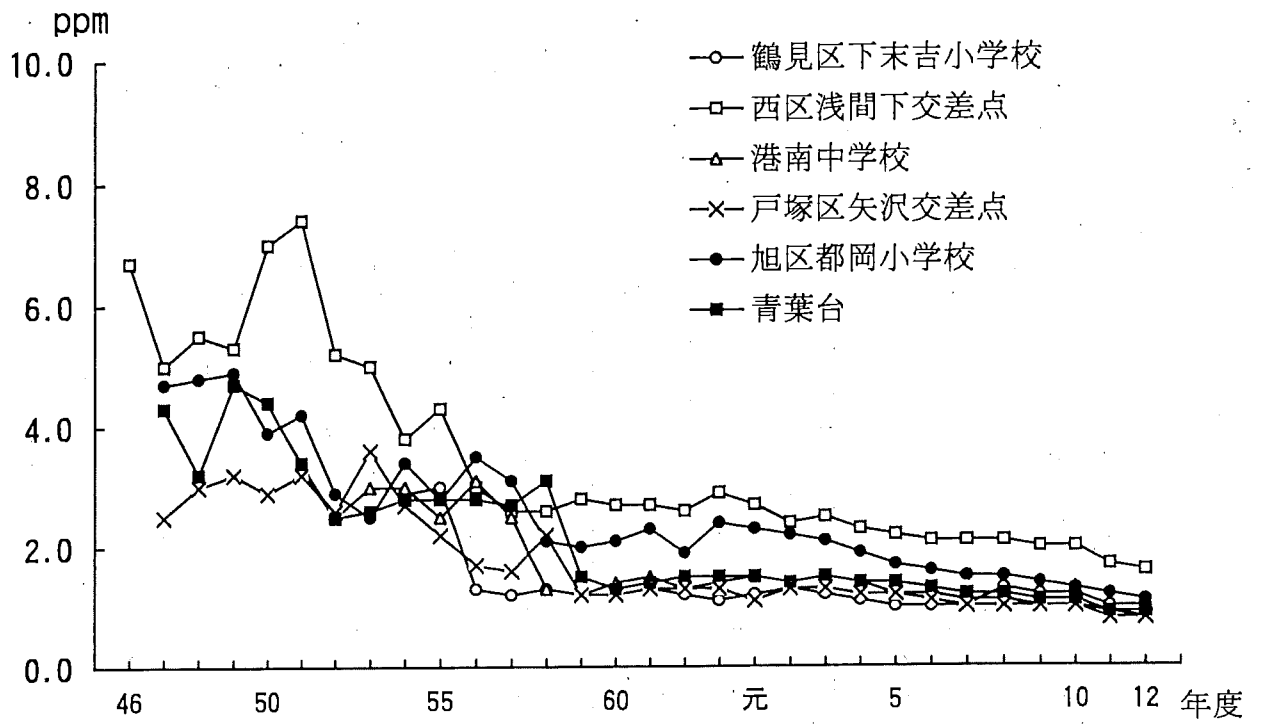


図 5 一酸化炭素濃度の経年変化 (自排局・年平均値)

表6-1 光化学オキシダント年間測定結果  
(一般環境大気測定局)

平成12年度

測定局	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	環境基準の適否 (適○、否×)
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.024	41	125	0	0	0.113	×
神奈川区総合庁舎	0.025	62	249	0	0	0.111	×
港北区総合庁舎	0.022	38	93	0	0	0.086	×
磯子区総合庁舎	0.022	36	116	0	0	0.111	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.025	58	238	1	1	0.126	×
西区平沼小学校	0.029	64	277	2	2	0.130	×
金沢区長浜	0.027	63	295	1	1	0.122	×
鶴見区生麦小学校	0.026	43	162	1	1	0.121	×
中区本牧	0.028	64	259	1	2	0.152	×
戸塚区汲沢小学校	0.031	92	511	4	8	0.150	×
港南区野庭中学校	0.023	59	304	3	5	0.137	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.024	53	226	2	2	0.155	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.030	76	374	3	3	0.134	×
南区横浜商業高校	0.026	59	240	0	0	0.099	×
栄区犬山小学校	0.031	90	492	3	5	0.158	×
緑区三保小学校	0.026	61	257	0	0	0.116	×
青葉区総合庁舎	0.027	64	293	2	2	0.122	×
都筑区総合庁舎	0.028	61	254	1	1	0.120	×
泉区総合庁舎	0.028	60	263	3	5	0.135	×
平均	0.026	60	265	-	-	-	-



表6-2 平成12年度光化学スモッグ注意報発令状況（横浜市域）

回数	発令日 (曜日)	措置 種類	発令時刻	市内Ox最高値 (ppm)	市内届出 被害者数	神奈川県内他地域 発令状況
1	6月16日 (金)	注意報	12:20~14:30	0.131 鶴ヶ峯(13時)	0人	県央
2	6月18日 (日)	注意報	14:20~17:10	0.152 本牧(14時)	0人	
3	6月19日 (月)	注意報	15:20~18:10	0.138 汲沢(16時)	0人	県央, 横須賀, 湘南, 西湘
4	7月17日 (月)	注意報	13:20~17:00	0.158 犬山(15時)	0人	県央, 湘南, 横須賀, 川崎
5	8月9日 (水)	注意報	16:20~17:20	0.128 犬山(16時)	0人	湘南, 横須賀
6	9月19日 (火)	注意報	15:20~16:20	0.127 犬山(15時)	4人	湘南, 横須賀

表6-3 光化学スモッグ注意報発令回数及び届出被害者数の推移

項目	年度															
	昭和 46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
注意報発令回数	8	10	20	9	12	7	3	11	4	3	8	2	3	4	6	
警報発令回数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
届出被害者数(人)	2337	834	1545	205	6175	823	909	61	268	0	454	3	178	65	113	

項目	年度															
	昭和 61	62	63	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
注意報発令回数	2	12	2	2	5	5	10	3	8	11	5	3	4	2	6	
警報発令回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
届出被害者数(人)	0	136	7	0	0	340	90	0	12	0	0	0	0	0	4	

大気汚染に係わる環境基準と評価方法について

物 質	環 境 基 準	評価方法
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価 *1
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	98%値評価 *2
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	長期的評価 *1
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価 *1
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	昼間 *3

\*1 長期的評価

年間の1日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。

\*2 98%値評価

年間の1日平均値のうち、低いほうから98%に相当するものを環境基準と比較して評価する。

\*3 昼間

5～20時のデータを対象とする。

表 7 有害大気汚染物質濃度測定結果 (平成12年度)  
(揮発性有機化合物等)

測定項目	測定地点					単位
	鶴見区 潮田交流 プラザ (一般局)	港南区 野庭中学校 (一般局)	緑区 三保小学校 (一般局)	戸塚区 矢沢交差点 (自排局)	磯子区 滝頭 (自排局)	
ベンゼン	2.7	2.6	2.7	3.3	4.3	μg/m <sup>3</sup>
トリクロロエチレン	2.9	1.4	1.6	1.3	1.7	
テトラクロロエチレン	1.2	0.91	0.96	1.1	1.0	
ジクロロメタン	1.1	3.5	3.8	4.8	3.9	
アクリロニトリル	0.11	0.075	0.088	0.18	0.089	
塩化ビニルモノマー	0.074	0.069	0.057	0.057	0.080	
クロロホルム	0.25	0.17	0.18	0.17	0.18	
1,2-ジクロロエタン	0.24	0.22	0.22	0.25	0.29	
1,3-ブタジエン	0.43	0.35	0.34	0.57	0.72	
アセトアルデヒド	3.5	3.0	2.9	3.3	4.0	
ホルムアルデヒド	4.6	4.0	3.5	4.8	6.3	
四塩化炭素	0.78	0.75	0.77	0.74	0.77	
1,2-ジクロロプロパン	0.14	0.062	0.069	0.10	0.080	
1,1,1-トリクロロエタン	0.35	0.32	0.34	0.31	0.35	
酸化エチレン	0.27	0.088	0.11	0.16	0.14	
ベンゾ(a)ピレン	0.78	0.53	0.76	0.72	0.85	ng/m <sup>3</sup>
ニッケル化合物	1.5	7.8	7.8	8.1	1.1	
バリウム及びその化合物	0.035	0.020	0.035	0.033	0.032	
マンガン及びその化合物	5.8	2.9	3.9	4.1	5.0	
クロム及びその化合物	1.8	7.3	6.9	9.2	1.2	
ヒ素及びその化合物	2.2	1.6	1.8	1.9	1.9	
水銀及びその化合物	2.6	2.4	2.5	2.8	2.6	

環境基準：(年平均値) ベンゼン 0.003mg/m<sup>3</sup> ( 3μg/m<sup>3</sup> ) 以下  
 トリクロロエチレン 0.2 mg/m<sup>3</sup> (200μg/m<sup>3</sup>) 以下  
 テトラクロロエチレン 0.2 mg/m<sup>3</sup> (200μg/m<sup>3</sup>) 以下

ジクロロメタン 0.15 mg/m<sup>3</sup> 150 μg

[下表は5月16日発表済み再掲]

表8 大気環境中ダイオキシン類の測定結果 (平成12年度)

(単位: pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

測定地点	春	夏	秋	冬	年平均値
	12年5月 23日~24日	12年8月 22日~23日	12年11月 21日~22日	13年2月 6日~7日	
1 鶴見区生麦小学校	0.20	0.14	0.069	0.18	0.15
2 西区平沼小学校	0.17	0.15	0.052	0.17	0.14
3 中区本牧	0.19	0.077	0.059	0.16	0.12
4 旭区鶴ヶ峯小学校	0.15	0.16	0.082	0.18	0.14
5 港北区総合庁舎	0.15	0.24	0.086	0.15	0.16
6 青葉区総合庁舎	0.15	0.21	0.099	0.17	0.16
7 戸塚区汲沢小学校	0.10	0.17	0.057	0.14	0.12
8 栄区犬山小学校	0.18	0.16	0.037	0.17	0.14
9 瀬谷区南瀬谷小学校	0.26	0.12	0.062	0.17	0.15
10 神奈川区総合庁舎	0.13	0.088	0.069	0.082	0.092
11 磯子区総合庁舎	0.16	0.023	0.080	0.15	0.10
12 保土ヶ谷区桜丘高校	0.19	0.035	0.080	0.12	0.11
13 金沢区長浜	0.14	0.16	0.062	0.17	0.13
14 港南区野庭中学校	0.15	0.13	0.051	0.16	0.12
15 南区横浜商業高校	0.19	0.11	0.056	0.11	0.12
16 緑区三保小学校	0.19	0.13	0.066	0.20	0.15
17 都筑区総合庁舎	0.14	0.21	0.040	0.18	0.14
18 泉区総合庁舎	0.072	0.11	0.074	0.15	0.10
平均値	0.16	0.13	0.066	0.16	0.13
瀬谷区五貫目町内会館	0.15	0.15	0.043	0.61	0.24
瀬谷区上瀬谷小学校	—	0.30*	0.77	0.29	0.45

\*平成12年7月10~11日に測定

単位 pg:ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム。  
 TEQ = 「毒性等量」。ダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8,-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン類の量に換算した量として表していることを示す符号です。  
 なお、毒性等量の換算にあたっては、平成11年度から世界保健機関 WHO-TEF(1998)の毒性等価係数を用いています。

環境基準: 複数回の測定値の年平均値で 0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup> 以下